

10月30日(月)

成長しなさい

聖書朗読 エペソ 4:1~16

ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進むではありませんか。
ヘブル 6:1

今日の聖書箇所は、新約聖書時代の初歩的ではありますが、素晴らしい信仰のあり方について、明確に述べられたものです。クリスチャンは何を信じているのかと問われたなら、「私たちは、からだは一つ、御霊は一つ、望みが一つ、主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、そして神は一つであることを信じています」と答えるでしょう。こうしたことは、クリスチャンの信仰の基本ですが、具体的に何を信じるかによって、信仰が意味のあるものとなります。神様と聖書について何を信じるのかが重要であり、日々倫理的な選択に迫られるときに、どのような信念に従うかが大切です。善にも悪にも、神様について信じる信念によって私たちの行動は左右されます。こうした選択に迫られたとき、慎重な注意深さが求められます。

しかしながら、こうした初歩的な教えは勿論大切ですが、今日の聖書箇所では、成長について語られています。現状から「私たちはあらゆる点において、成長し」「キリストの満ち満ちた身丈にまで達し」「私たちはもはや子どもではないのです。」

誰かに「成長しなさい」と言うことがあったら、それは相手が成長していないことにもどかしさを感じて発する言葉ではないでしょうか。この聖書箇所では、もどかしい思いは伴ってはいませんが、「いつまでも幼子であること」から成長することが、いかに重要であるか、私たちにはっきりと語られているのです。成長しましょう。

讃美歌 16

祈り 主よ。私たちが昨年よりも成長したと、あなた様に認めていただけるよう祈ります。そして、あなた様の助けにより、キリストの身丈にまで成長し続けることができるよう祈ります。

イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・フリッツェル
テキサス州 グランバリー

今日のカ

2023年10月30日~11月5日

事情により、以前に配布されたものから再編集してお届け致します。

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月31日(火)

もうひとつの機会

聖書朗読 ルカ 18:18~30

私が手紙を書いたのは、あなたがたがすべてのことにおいて従順であるかどうかをためすためであったのです。 IIコリント 2:9

「ケーキを食べたらケーキを持っていることはできない」(ケーキは食べたらなくなるので、矛盾する2つのことを同時に実現することは不可能だという意味)ということわざがあります。不幸なことに、あるお金持ちの役人が永遠のいのちが欲しいと思いましたが、彼はそれ以上にお金持ちでいたいと思いました。『しもべは、ふたりの主人に使えることはできません。・・・あなたがたは、神にも仕え、また富にも使えるということではできません。』(ルカ16:13)と、イエス様はわかりやすく話してくださいました。イエス様には、小さいときからすべての戒めに従ってきたこの若者を引き離しているものが、何であるかがわかっていらっしやいました。彼は相反する2つの世界を持つことを望んでいたのです。

マタイの福音書25:31~46の審判の場面において、永遠のいのちを与えられた者たちは、自分がしていたことを神様がみこころに留めていてくださっていたとは知りませんでした。顔をそむけられた人たちは、自分たちがしてきたことをリストし始めました。世俗的な人たちは、私たちに従順を求められる神様のみこころを悟らず、自分の信用を得ようとして、これまでしてきた良いことをすべて勘定に入れる傾向があります。

神様から私たちを引き離すものは、私たちの主人となります。イエス様が「私と一緒に来なさい」とおっしゃるとき、イエス様は重要な選択、「a fork in the road」(道の中にささったフォーク。重要な決断を迫られ、人生の岐路に立たされている状態のこと。特に2つの選択肢の内どちらか一方を選ばなければならないような状況)、右か左かの選択を提示されているのです。一度に両方には行くことはできません。イエス様の犠牲的な愛は、みもとへと私たちを呼んでくださいます。それ以外の道に進むことに、真の愛はありません。

讃美歌 336

祈り 親愛なる主よ。あなたをほめたたえます。すべてのことにおいて、あなたに従順でありますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ゲイネル・トーマス

ニューメキシコ州 ポーテイルズ

11月1日(水)

信仰の足跡

聖書朗読 ローマ 4:1~15

主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。」 創世記 12:1

アブラハムは行き先もはっきりしない旅へと出発したとき、確かに信仰の一步を踏み出しました。今日の朗読は『信仰の足跡』についてです。それを読みながら私は「容易に登れる山はない」という表現を思い出しました。アブラハムの山は確かに簡単には登れませんでした！ 私たちの山も同じです。

アブラハムは神様を信じていました。彼の行く道がどこに通じているのか分からなかった時でさえ、神様に従いました。世界を旅するのは困難です。知らない道や恐怖を感じる道を行かぬばなりません。神様が私たちに示された道を、信頼しつつ行かぬばなりません。私たちの信仰が神様の導きに従うとき、それは報われます。

今日あなたが一人さびしく旅する道は何ですか。病気や死や離婚や破産でしょうか？ あなたより先にその道を歩いた人たちの足跡を探してごらんください。神様だけがくださる力をもって、あなたの後に来る人たちを導きましょう。信仰が、私たちの一步一步を可能にしてくれます！

信仰はどこへ導かれるのか、その行先をけっして知ることはない、
しかし、信仰は、自分を導く人がだれか知っているし、
その人を愛している。

————— オズワルド・チェンバース

讃美歌 270

祈り お父様。あなたがくださった信仰の模範に、そしてそれが永遠に真実であると約束してくださったことに感謝します。

イエス様の御名のもとに。アーメン。

アニータ・プライス
テキサス州 ラボック

11月2日(木)

送り出された人々

聖書朗読 ヨハネ 17:6~19

あなたがたは、・・・エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てまで、わたしの証人になります。
使徒 1:8

考えてみるとイエス様が私たちのために祈られたと言う事は、深い意味があり、かつ課題を与えるものです。ヨハネ17章での素晴らしい祈りでは、イエス様ご自身がこの世に遣わされた目的をはっきりと述べています。その目的とは永遠の命を与えることです。永遠の命とは唯一、真の神を知ること、イエス様がそのお方から遣わされたと言う事を知ることであるのを心に銘じなさい。これはイエス様が私たちに対して唯一真の神様への誠実な証言者と成るべく達成された仕事です。

ヨハネの福音書における今日の朗読箇所は、私たちへの委任です。イエス様は信徒達に対して神様への忠実な証人となるよう御言葉と行動を示されました。彼らはこの世の者ではなく神の者なのです。そして祈られました。「真理によって彼らを聖別してください」と。そして最も望んでおられるのは信徒達が示された真理を通して神様の目的に沿って聖別され、そしてイエス様からの使命を続けることです。イエス様は使徒達の為と同様にその名により信者となった私たちを含めすべての人達の為に祈っておられます。

イエス様がこの世に送り出されたように私たちも送り出されました。この世の人達が神様は唯一でありイエス様は誠実な証人であり、その御言葉と行いを通して真の命の導き手である事を知る事ができます様に。

讃美歌 225

祈り 遣わされた神様。イエス様を通して全ての生ける者を救うという壮大な任務の一部に私を加えてくださった事に感謝します。任務を遂行する上であなたの御言葉や行いに対して忠実な証人となれる様に導いてください。

イエス様の御名を通して。アーメン。

アール・ラベンダー
テネシー州 プレントウッド

11月3日(金)

ギレアデの乳香(薬用)

聖書朗読 詩篇 46編

どうか、朝には、あなたの恵みで私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜び歌い、楽しむようにしてください。
詩篇 90:14

高いヤシの木に登って、全身の皮膚をすり傷だらけにしてしまった小さな男の子の話聞いたことはありませんか。この男の子は木に登っている途中で足をすべらせてしまい、木の上から下まで幹を抱くようにして落ちたのです。その男の子が最初のショックから立ち直り、涙がかわいた後で、両親に言ったことは「まあいいや、少なくともかさぶたを引きはがすのは好きだから！」

人生はしばしば、ガサガサでベタベタのかたまりです。問題は毎日そびえたっています。道を間違えれば、孤独に傷つくことになります。争いによって家族や心の中が傷ついてしまいます。勇気は束の間しか続きません。私たちはなんとたやすく疑惑や不満を叫び出してしまふことでしょうか！しかし、神様は私たちに、神様にあって信頼するようにとおっしゃっています。神様は私たちの壊れやすさを保全し、私たちの罪なるたましいにも満足してくださっています。

イエス様は私たちに言われています。『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎがきます。』(マタイ11:28~29)。私たちがイエス様のもとへ行くことができますように。

讃美歌 第二編 56

祈り お父様。あなたの恵みで私たちを毎日満ち足らせてください。あなたは私たちの希望です。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

ルーシー・パーリン
テキサス州 ラボック

11月4日(土)

続けることやめない

聖書朗読 ローマ 15:1~7

どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。 ローマ 15:5

忍耐とは、踏みとどまり、困難な課題を成し遂げるこのとのできる能力のことです。忍耐という言葉から登山やオリンピックの10種競技のような極限スポーツを連想することがあります。このため、パウロがクリスチャン・ライフと忍耐を結び付けたことは興味深いものがあります。

クリスチャンであることは、望みうる最良の生き方ですが、それを止めることはいとも簡単です。クリスチャンとして歩んでいても、生きることはとても困難で、忍耐を求められます。

忍耐は霊的な持久力を持つことです。それは、人生で何が起きようとも、それから逃げないでいる能力です。たとえ物事が悪い方へ向かっているときでさえも耐え続けることです。痛み、悲しみ、困難な時でも信仰を持ち続けることです。神のみが私たちに続けることを止めない忍耐を与えることができるのです。

パウロが「忍耐」に対して使ったもともとのもとの言葉は「~のまま」や「置かれたままの状態である」を意味します。これは厳しい、好ましくない状況の中で育つ植物のことに例えられます。岩の裂け目で成長していく植物のイメージはクリスチャン・ライフの良い例えです。日の光に一生懸命向いて成長しているこの植物のように、クリスチャンは神の御力によって、御国を目指して成長し続けるのです。

讃美歌 508

祈り 主よ。私たちに忍耐をお与えください。日々、よりイエス様のようになれるよう成長し続けることをやめないようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

フィリップ・イッチマン
サウスカロライナ州 アイアモ

11月5日(日)

伝道は難しくない

聖書朗読 Iコリント 3:5~15

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

Iコリント 3:6

多くのクリスチャンが福音を伝道することは難しいと思っています。「放蕩息子の話をするにはどの箇所を読めばいいんだろう?」「アグリッパに打ち勝つことについて、何を話したらよいだろうか?」などと、私たちはキリスト教に対しての哲学的な反論について、また深い罪の問題の克服のしかたについて、あれこれ仮想してしまいます。

しかし、福音の伝道は簡単なものなのです。なぜなら、キリスト教へ入信する人の多くが子どもだからです。研究によると、教会の大多数の人が十代かもっと幼い時にクリスチャンになっています。

若者の心に福音を植えて水をやることは、庭仕事と同じように簡単なことです。パウロもコリント人への手紙第一でそのことを述べています。3歳の子どもに聖書の話をしてあげれば、それが福音を植えることになります。10代の若者たちに教えればそれが水をやることになります。5歳の子には夏休みの教会学校で人形劇をしながら教えればそれが福音を植えることになります。水やりは、水曜日の夜の聖書クラスで7年生を教えたり、マタイの福音を高校生に教えればいいのです。若者たちと、福音を簡単に効果的に分かち合えるということを理解すれば、伝道の仕事はワクワクするものとなり、私たちのクリスチャン人生を豊かにしてくれます。私たちを通し、神様は若い人たちをご自分の王国に招かれているのです。

聖歌 201

祈り 親愛なるお父様。子どもたちに感謝します。子どもたちに今週はどのように福音を植え、水をやればよいか、示してください。

あなたの御子イエス様の御名において。アーメン。

ハロルド・シャンク
ウェストバージニア州 パーカーズバーグ